

研究・調査報告書

報告書番号	担当
60	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol use and risk of pancreatic cancer: the NIH-AARP Diet and Health Study. 飲酒と膵癌リスク	
執筆者	
Jiao L, Silverman DT, Schairer C, Thiebaut AC, Hollenbeck AR, Leitzmann MF, Schatzkin A, Stolzenberg-Solomon RZ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Initially submitted September 15, 2008; accepted for publication January 23, 2009	
キーワード	
飲酒、コホート研究、膵腫瘍、リスク、喫煙	
要旨	
<p>背景： 膵臓癌の進行におけるアルコール摂取の影響についての疫学的エビデンスは一致していない。</p> <p>方法： 米国国立衛生研究所-AARP Diet and Health Studyの1995-1996年時50-71歳であった470,681人の参加者で、飲酒と膵癌リスクとの関連を調査した。2003年12月までに1,149人の的確な外分泌膵臓癌ケースを同定した。多変量調整コックス比例ハザード回帰モデルが、少量飲酒者 (<1drink/日)をリファレンス・グループとした相対危険と95%信頼区間を算出するのに使用された。</p> <p>結果： 膵癌への進行の相対危険度はリファレンス・グループと比べ、多量飲酒(3drink以上/日、40g以上/日)では1.45(95%の信頼区間 (CI) :1.17-1.80; Ptrend=0.002)、多量蒸留酒飲酒者では1.62(95%のCI:1.24-2.10; Ptrend=0.001)であった。多量飲酒者の増加したリスクは、非喫煙者 (相対危険度: 1.35、95%CI:0.79-2.30) およびバースライン時より10年以上前からの禁煙者 (相対危険度: 1.41、95%CI:1.01-2.00) でも見られた。これらの所見は多量飲酒 (特に蒸留酒飲酒者) で中程度の膵臓癌リスク上昇を示唆するが、喫煙による交絡は完全には除外しきれなかった。</p>	